

食品製造業・飲食店等におけるGAP認証商品の利活用意識調査

【企画振興部門】

田中昭徳、西田 剛、○甲把理恵

1 課題を取り上げた理由

農業者がGAPを取り入れることは、農産物の安全性・品質の向上、環境保全、労働安全を確保するうえで有効な取組みであるとともに、HACCP義務化等を契機に農産物を調達する事業者の関心も高まりつつある。

しかし、GAP認証商品としての取引は、現状では大手量販店やファーストフード店などに限られていることから、今後の販路拡大に向けた課題を明らかにするため、実需者への意識調査を行った。

2 当該年度の調査研究計画

- 1) 調査対象 食品関連事業者（食品製造業・飲食店・卸売業など）
- 2) 調査方法 令和6年1月17日に三豊市で開催された「みとよ農水産物商談会」に参加したバイヤーへアンケートを実施し、取りまとめた。

3 結果及び考察

- ・ アンケートを実施した14名のうち、回答があったのは11名であった。このうちGAPを知っている、聞いたことがあると答えたのは9名でGAPの認知度は8割以上であった。一方で、GAP農産物を仕入れたことがよくある、ときどきあると答えたのは1名で全体の1割に満たなかった。
- ・ 実需者からは「今回の商談会で初めてGAPの取組みを知った」、「学校給食で扱えるようになれば取引しやすいので、学校給食へ導入を進めてほしい」、「環境負荷の低減やリスク管理の実施など、大変良い取組みであると思うが、農産物の価格は高くなるのか」などの要望や質問があった。

以上の結果から「GAP」というフレーズに対する認知度は一定程度高まっているものと考えられた。一方で「GAP」というフレーズは知っているものの、取組み内容については知らないと回答する者も数名いたことから、実需者はGAPの内容を理解すれば、GAP農産物を相対的に高く評価し、需要が高まる可能性があると考えられた。

みとよ農水産物商談会 GAPアンケート結果				
令和6年1月17日(水) 三豊市民交流センター 多目的ホール				
対象者(バイヤー) 14名				
回答者: 11名				
対象者(バイヤー等)	: 14名			
アンケート回答者	: 11名			
職業	卸売業	小売業	食品製造(二次又は最終加工)業	その他
	1	6	1	3
勤務地	観音寺市	三豊市	観音寺市、三豊市以外の県内	その他県外
	0	0	10	1
GAPの認知度	知っている	聞いたことがある	知らない	
	5	4	2	
GAP農産物の商談に関わったこと	よくある	ときどきある	ほとんどない	全くない
	1	4	3	3
GAP農産物を仕入れたこと	よくある	ときどきある	ほとんどない	全くない
	0	1	5	5

4 農業者等への波及

GAPは流通事故を未然に防ぐための取組みとして、実需者から評価が得られる可能性があり、実需者への情報発信をより積極的に行うことでGAP農産物の取引が増える可能性があると考えられる。

5 残された問題点

実需者からの引き合いを増やすためには、消費者のGAPに対する認知度と、GAP農産物への評価を高めることも重要である。今後も関係機関と連携し、消費者及び実需者への情報提供が必要であると考えられた。



GAP認証農家と実需者の商談の様子



商談会での管内GAP農産物のPR